東京国立博物館ウェブ作成ガイドライン

2010年11月19日作成
2021年6月30日ウェブサイト公開

目次

1	基本方針	3
1.1	規格などの尊重	3
1.2	配慮の対象	3
2	構造	4
2.1	ページ毎にページの内容を識別できる名称を付ける	4
2.2	見出し・引用文・リスト等の要素をデザイン要素では使用しない	4
2.3	table をページレイアウトの為に使用しない	4
2.4	table を利用する際は、音声ブラウザの読み上げに配慮する	4
3	操作	4
3.1	点滅文字やスクロール文字は利用しない	4
3.2	キーボードだけで全ての操作ができる	4
3.3	グローバルナビやローカルナビは、読み飛ばせるようにする	5
3.4	ページが自動的に切り替わるような技術は使用しない	5
3.5	リンクがあることを見ただけで分かるようにする	5
3.6	リンクはリンク先の内容がわかりやすいように作成する	5
3.7	リンクのある文字や画像にはクリックしやすいように大きさ・間隔に配慮する	5
3.8	ボタンはその役割がすぐ分かるようにする	5
4	文字・表記	5
4.1	文字サイズ・フォントは必要に応じて利用者が変更出来るようにする	5
4.2	内容を理解するのに必要な情報は、色・形、または位置だけでは表現しない	6
4.3	機種依存文字は利用しない	6
4.4	音声での読み上げに配慮する	6
4.4.1	数字	6
4.4.2	記号	6
4.4.3	読み	6
4.4.4	スペース	7
4.4.5	ページ内の方向を示す言葉	7
4.4.6	リンク	7
4.4.7	括弧()	7
4.4.8	取り消し線	7
5	画像・動画・音声	7
5.1	画像には基本的に画像の内容を的確に示す alt 属性(代替テキスト)をつける	7
5.2	画像に文字を埋め込む場合は、フォント・サイズ・コントラストに配慮する	7
5.3	画像のみで重要な情報を提供している場合は、テキストで補足する	7
5.4	動画を使用する場合は、音声又はテキストなどによる同等の情報を提供する	7

6	フォーム	8
6.1	フォームの入力項目には、入力する内容や条件などを明確に示す	8
6.2	選択肢が複数個ある場合は選択肢の値をあらかじめ提示する	8

1 基本方針

東京国立博物館が運用する公式ホームページにおける各ページの統一性・一貫性を高め、利用者満足度を向上させるため、ガイドラインを定めます。

1.1 規格などの尊重

アクセシビリティを確保するための具体的な指針である日本工業規格「JIS X 8341-3」を尊重し、規格の示す要件にしたがった出来る限りの対応を行います。

1.2 配慮の対象

利用する方の使用環境等に関わらず、ホームページの情報が得られ、サービスを利用できるような配慮に努めます。特に、障がいのある方、年配の方が、身体的な制約等が原因で利用できないということが起きないよう、できる限り配慮します。

2 構造

2.1 ページ毎にページの内容を識別できる名称を付ける

ページのタイトルはブックマークなどの登録などにも使われるため、内容を連想しやすい名称をつける。

- ページ名称を明確に示す
- 該当ページのリンク名称と一貫性を持たせる
- 全てのページに異なるタイトルタグを設定する
- 15～20 文字程度

2.2 見出し・引用文・リスト等の要素をデザイン要素では使用しない

音声ブラウザ等は、HTML 規格・文法に従って正しく書かれていることを前提に考えられている。HTML 構造を表すための要素をデザインのためだけに使用した場合、音声ブラウザ等を利用している環境では正しく読み上げられない為に、情報にアクセスできない可能性がある。

- 見出しの階層構造を示す<h1>、<h2>等を文字サイズの指定用途で使わない。
- 引用を表す<blockquote>、<p>要素をインテンド用途で使わない
- 箇条書きを表す、要素をインテンド用途で使わない
- デザインを整えるためにスタイルシートを活用する

2.3 table をページレイアウトの為に使用しない

ソースの記述順に読み上げてしまう音声ブラウザ等では、table 要素をレイアウトに使用すると意図しない順番で読み上げる可能性がある。

- なるべくセル(td)の結合は避ける
- <th>(表タイトル)を表の中間では使わない
- 極カスタイルシートでレイアウトを行う

2.4 table を利用する際は、音声ブラウザの読み上げに配慮する

音声ブラウザは表を左上から右下に読み上げるため、行や列の関係が分かりにくくなる可能性を考える。

- <caption>要素で分かりやすい表題を付ける
- 行や列の見出し項目名は<th>要素を使って指定する。

3 操作

3.1 点滅文字やスクロール文字は利用しない

視覚に障がいのある場合や、加齢などの原因で認知力などが低下してくるような場合、視覚的に変化する情報は把握しにくくなる。

- 点滅を繰り返す表現は使用しない(<blink>要素)
- 文字などの自動スクロールは使用しない(<marquee>要素)

3.2 キーボードだけで全ての操作ができる

視覚に障がいのある利用者は、キーボードだけを使う場合がある。また、マウスを使うことが困難でキーボードだけを利用する場合がある。

- 「Tab」キー、「Enter」キーによる画面スクロールを可能にする
- 「onClick」、「onmouseover」等のマウスでの操作を前途にしている JavaScript は使用しない
- Selectbox での JavaScript の「onChange」での表示切り替えは使用しない。通常の Selectbox と submit ボタンで対応する

3.3 グローバルナビやローカルナビは、読み飛ばせるようにする

グローバルナビのようにページの上部にあるものは、音声ブラウザなどでは毎回読みあげられてしまう。

- 各ページで使用している共通のグローバルナビやローカルナビは、音声ブラウザの使用時にスキップできるように本文へページ内リンクを付ける。
- 透過 gif に「alt="本文へジャンプ"」などのようにリンクを設置し、ページ内の各エリアについて、「alt="ここから本文です"」など、補足説明を記述する。

3.4 ページが自動的に切り替わるような技術は使用しない

新しい画面が開いたことを把握できない利用者は、突然「戻る」ボタンが使えなくなるため、前ページが表示出来なくなる変化に戸惑ってしまう可能性がある。

- 新しく画面を開いたほうが内容を参照しやすい場合はあらかじめリンク元で新しい画面が開くことを明示する(「展示(新しいウィンドウで表示)」等)。
- ページ削除などにより新規ページへ自動的に移動させる場合は、表記内容を読み上げる時間のインターバルをあける。
- なるべくポップアップウィンドウは使用しない

3.5 リンクがあることを見ただけで分かるようにする

画像や下線のないテキストの場合は、高齢者や初心者は、リンクの存在を見落とす可能性がある。

- リンクボタン等の画像は枠や影を付けるなどボタンに見えるようにし、リンクのない画像は平面で表現する
- テキストリンクのアンダーラインを表記する

3.6 リンクはリンク先の内容がわかりやすいように作成する

リンクを張った文字からリンク先の内容を推測出来ない場合、リンク先の情報が把握できないために、情報にアクセスできなくなる可能性がある。

- リンクは「応募する」、「PDFをダウンロードする」といった行動に直結するリンク名で提示する。
- リンクを張る文字は、リンク先の内容が分かるような簡潔な表現にし、音声ブラウザの読み上げを可能にする(ここ、こちら、クリック! など、リンク先の内容が推測出来ない表現は避ける)。
- リンクを張った画像には、alt 属性で適切なリンク先の説明を付け、ボタンの機能を推測出来るようにする。

3.7 リンクのある文字や画像にはクリックしやすいように大きさ・間隔に配慮する

リンクのある文字や画像が併設しているリンクの場合、リンクの区切りを把握出来ないことがある

- 隣接するリンクの間に、十分な感覚を設ける
- テキストリンクが横に並ぶ場合行間を広くとるか、間に「|」や「/」を入れる
- 画像が併設しているリンクの場合、画像だけにリンクを設置しない

3.8 ボタンはその役割がすぐ分かるようにする

ボタンやラジオボタンなどを独自にデザインする場合は、操作方法が見ただけで分かるように作成しなければならない。

- 「送信」、「応募」ボタンはフォーム最後に表示する等、入力操作の流れを考慮した配置にする。

4 文字・表記

4.1 文字サイズ・フォントは必要に応じて利用者が変更出来るようにする

高齢者または、弱視者は文字が小さくて読みづらく感じることもある。

- 文字サイズ、行間を指定する場合は「mm」、「pt」ではなく、サイズ変更が出来る「%」、「em」等を利用する
- OSにより、搭載されているフォントは異なるので、フォントの指定は行わない

4.2 内容を理解するのに必要な情報は、色・形、または位置だけでは表現しない

視覚障がいがある場合、色・形または位置だけで情報を提供していると提供されていることが認識できず、その内容も理解できない。また、色覚障がいがある場合、色だけで情報を提供していると提供されていることが認識できずにその内容が理解できない可能性がある。

- 「右下のボタンを押してください」ではなく「右下の送信ボタンを押してください」とし、位置だけではなくテキスト情報も加える
- 入力フォームで「赤は必須項目」と指示する場合は、その必須項目を赤くするだけではなくテキストで(必須項目)を加える

4.3 機種依存文字は利用しない

半角カタカナ及び機種依存文字は利用しない

- 機種依存文字は利用しない
- 半角カタカナは利用しない
- 外字を利用しない

4.4 音声での読み上げに配慮する

4.4.1 数字

半角数字で、位取りの「,」を利用する

4.4.2 記号

- 「注記」の表現方法
「※」や「*」を利用しない。(注)と表記する。
- 方向
矢印を利用しない。「から」と表記する
例:「右→左」⇒「右から左」
- 曜日
(火)と表記する。できれば、(火曜日)と表示する。
- 日付
/を使用しない。2011年4月11日と表記する。
- 時刻
24時間制の表記とする。
日本語ページについては「:」を使用しない。15時25分表記する。(24時制表記)
- 箇条書き
「○」、「・」を使用しない。「」、「」構文を使う。
- 単位
cm等の単位記号は使用しない。センチメートルと表記する。
情報量の単位である「KB」、「MB」等の使い方であれば問題ない。
- 期間、範囲
日本語ページについては「-」は利用しない。「～」を利用する。
例:10:00-11:00 ⇒ 午前10時から午前11時
～特別展のご案内～ ⇒ 《特別展のご案内》
- 金額
「¥」を使わない。「,」を用い、10,000円と表記する。
例:¥123,456 ⇒ 123,456円
- 電話番号、ファックス、階
TEL、FAX、Fを使わない。電話番号、ファックス、階とする。

4.4.3 読み

- 「方」の表現方法

「かた」と「ほう」とどちらでも読むことが出来る文字は注意をする。

□ 同音異義語の表現

「みにくい」は「醜い」と「見にくい」で二つの表記が有り、それぞれ意味が異なるので違う表現にするなど注意が必要。

□ 「は」の表記方法

ひらがなの「は」は「ha」と読むときと「wa」と読むときがある。読点で意図が伝わる書き方をする。

例: ひとりはおふねに乗る。 → 「ひとは、おふねに乗る」と「ひとり、はおふねにのる」

4.4.4 スペース

単語の間に全角スペースを入れない。デザイン上スペースを入れる場合は半角スペースか空白記号()を使用する。

例: 「国 宝」(間に全角スペース) ⇒ くに たから

4.4.5 ページ内の方向を示す言葉

「下記のとおり」、「左のとおり」等、目で見ていることが前提となる表現は使わない。「次のとおり」にするのがよい。

4.4.6 リンク

別ページに詳細なデータを用意し、「くわしくはこちらをご覧ください」とリンクを用意する場合は、「こちら」という表現が、音声ブラウザでは「どちら」が判らないものであり、「ご覧下さい」も目で見えることを前提とした表現である。

例: こちらをご覧ください ⇒ 詳しくは〇〇についてご確認ください

リンク: 〇〇について

4.4.7 括弧()

音声ブラウザでは「かっこ」「かっことじ」とは読み上げない。

なるべく括弧は使わないようにする。使用した場合、括弧読み上げに反映されなくても問題ない様に表記を配慮する。

本文例: TNM こと東京国立博物館は。

4.4.8 取り消し線

取り消し線を示す「<s>」、「<strike>」は目で見ていることが前提となる表現なので、使う場合は「不要になりました」などテキストも併記する。

5 画像・動画・音声

5.1 画像には基本的に画像の内容を的確に示す alt 属性(代替テキスト)をつける

alt 属性を指定していないと、画像の内容を把握できない場合がある。

- 章立てなどタイトルテキストの前に画像を使う場合、alt 属性は入れない(第一章などと alt でつけると)二度読み上げられてしまう。

5.2 画像に文字を埋め込む場合は、フォント・サイズ・コントラストに配慮する

弱視の方や色弱の方の中には、ブラウザ側でフォント、サイズ、色などを変更できないため情報にアクセスできない可能性がある。

- どうしても必要な場合は、文字サイズを大きくし、背景と文字にはっきりとしたコントラストをつけ、識別しやすいようにする。

5.3 画像のみで重要な情報を提供している場合は、テキストで補足する

- 図表やグラフなどの画像には、画像と同じ HTML ファイル内に、テキストで解説を記述する。

5.4 動画を使用する場合は、音声又はテキストなどによる同等の情報を提供する

- 動画リンクの下に、テキスト版のリンクがあるのが望ましい。テキストの内容は、動画と同じでなくともよい

- 動画には字幕をつけることが望ましい
- 動画は自動的に再生しない

6 フォーム

6.1 フォームの入力項目には、入力する内容や条件などを明確に示す

入力項目から離れた場所に、入力項目の説明、注記(字数制限など)を表示すると、利用者はそれらの情報に気づかない可能性がある。

- 入力に関する指示、説明、注意事項などは、入力項目の近くに表示する。音声ブラウザの読みあげを考慮し、入力用のテキストボックスなどの前に記述することが望ましい(入力操作前に把握できる)。
- 必須項目と任意入力項目の区別を明確にする。又、必須であることを色や記号で表現しない。

6.2 選択肢が複数個ある場合は選択肢の値をあらかじめ提示する

ラジオボタン、チェックボックスを使用するときは、最初に「次の5個の中から選んでください」などと記述することが望ましい。

- 年月日など、数字を選択するコントロールには、選択肢の中に数字だけでなく、「月」、「年」などの単位も記述する。
- 選択する内容によっては、「不明」や「わからない」といった選択肢も用意することが望ましい。